地域に根差した優しい病院づくりをめざします

当院は、諫早の中央に位置し、地域に根差した医療・介護の提供に努めてまいりました。
近年の医療福祉環境の変化である地域包括ケアシステム構築は、安定した在宅療養生活を持続させるための受け皿作りであり、地域共生社会を創っていくまちづくりでもあります。
そこで私たちは、地域のニーズに応えるべく、医療・福祉を総合的に提供できる地域多機能型病院の展開を目標に取り組んでまいりたいと考えます。
「医療機能」「介護機能」「生活施設」を兼ね備えた介護医療院を整備し、利用者の尊厳を最期まで保障し、状態に応じた自立支援を常に念頭に置き、長期療養・生活施設の提供を行うことで、地域に貢献し、地域に開かれた交流施設として位置付けて行きたいと考えます。
また、急性期治療後の患者さんに対し、診療科にとらわれない幅広い知識とリハビリテーション・看護・介護・栄養など、職種横断的な総合診療医としての知識を用いて、患者さんが持つ複数の疾患、社会的背景、生活面などを考慮し、「全人的な治療」を行います。
併設している居宅介護支援事業所や通所リハビリテーションと連携して幅広く地域のニーズに対応できる体制を整えています。

理事長　姉川　和生

病棟のご案内

医療療養型病床　90床

療養病棟は、急性期一般病棟などで治療を受けた後、引き続き医療提供の必要性が高く、病院での療養が継続的に必要な患者さまを対象にご利用いただく病棟です。
療養病棟は、厚生労働省が作成した、病態・処置の状態ランク（医療区分1～3）と介護を要する状態ランク（ADL区分1～3）の組み合わせによって入院料が分類され、当院では医療区分2および3に該当する患者さまが主に入院されており、安心した入院生活が送れるよう職員全員でサポートを行っています。

回復期リハビリテーション病棟　22床

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管障害や骨折の手術などのため急性期で治療を受けた発症後早期の患者さまを対象とし、機能回復や日常生活動作能力の向上などリハビリ治療を中心とした医療を提供する病棟です。
住み慣れた在宅生活への復帰や社会参加を目指すため、患者さまの状態にあわせた目標の設定、リハビリ計画、定期的な評価などを行い、患者さまやご家族の希望も取り入れながら、リハビリテーション科医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなどの各専門職がチーム一丸となって、退院に向けたサポートを行っています。